

四季のコンサート だより

1996年9月28日発行

浜松音楽友の会

事務局〒430 浜松市中沢町44-11

電話連絡 473-3579 (原)

「私の見た音楽美学」

梶山久美

皆様こんにちは。去る4月16日には、あまりお天気の良くない中、また御多忙の中、たくさんの方々にお耳をお貸しいただきました事、心より感謝致しております。また、スタッフの方々の、毎回素敵な演奏家を招聘なさる情熱とご尽力に感動致しますと同時に、そのお仲間に加えていただいた事を光栄に存じます。ありがとうございました。

先日たまたまテレビで、アバド指揮、ベルリンフィルでベートーヴェン第七交響曲と、クーベリック指揮チェコフィルでドヴォルザーク「新世界」を聴きました。どちらもお国もので一流の演奏でしたが、私としてはクーベリックの、暖かく味わい深い「新世界」がより好きでした。私がクーベリックに共感したのは多分、彼自身は無色燈明の媒体になることで、私の心にドヴォルザークを直接感じさせてくれたからだと思います。そこに彼が添えたものがあるとすればそれは、自我ではなく、真摯さ、忠実さ、愛情や喜びといった物だったと思えたからです。

私は純粋に音楽愛好家になるべく、ヴァイオリンを始め（させられ）た割には、幼い頃から勉強している曲について人の演奏を聴くのが大嫌いでした。人の真似はしたくないという、妙な意地があり、私だけのうたい方を確立したかった様です。それは決して悪い事とは言えず、むしろある年齢までは、自身の特色を濃くしてゆくのは、真似するだけよりは良かったのでしょう。でも芸大を卒業するまで、全て自分で色づけして音楽を形づくって何とかなっていた私は、ある時突然、音楽そのものに興味を失い、自分に限界を感じました。当然でしょう！自分が作ったわけでもない曲を、狭い自分の世界だけでこねくり回すのですから。図々しいものです。で、改めて原点を見、音楽を好きになるためウィーンに行ったのですが…。

空っぽになっていた私の心に、衝撃的な程注ぎこまれてきたのは、ウィーンの人々の、音楽や作曲家に対する理解と愛情深さでした。自分が思った様に弾くのではなく、作曲者の思った通りに弾く姿勢でした。むしろ個々の性格や趣味により、受け取り方は違ってくるのですが、私はやっと、自分や個性は付随するもの、そして自分以外の者の心をおし図り、作曲者の思いを伝える役になれる時はじめて、聴く人の心をも気にかげられる、と気づかされました。さらに音楽とは、作曲家と演奏家と聴衆のいづれにも、「心」が通ってこそ成り立つもの、だから人に心がある限り、音楽には時空を超えた引力があるのだ。と、限らない天空を仰ぎ見る気持ちでした。

世間一般に音楽会の数も増え、どの演奏会に行けば聴いてよかったと心から満足できるのか、聴衆は選ぶのが難しい昨今ですが、私はせめて、ひとりよがりには走らず、音楽の持つ神秘さ深遠さを忠実にお伝えする演奏を、お聴かせしたいと切に願っております。また音楽家であると同時に、一女性として少しづつ心を成長させてゆく過程を、音を通してお見守りいただけましたら、幸いです。



「四季のコンサート」には

久保田陽子

四季のコンサートに入会して感じたことは、一つのジャンルにかたよっていないということです。コンサートに行くのは、やはり自分が勉強しているもの、興味を持っているものにかたよりがちですが、四季のコンサートでは様々な楽器を楽しむことができます。

特に、今年の6月にあった倉田寛さんのトロンボーンのリサイタルはとても楽しみにして行っただけで、色々なことが目に入ってきました。プログラムを見ていて気がついたのは、曲の演奏される順番がバロック音楽から始まり、現代音楽で終わっているということ、演奏順序も時代を追って考えて下さっているんだなあと思うと、なんだかうれしくなりました。

そういうことも、私が今音楽を勉強しているから分かるのであって、以前だったら気にもとめなかったかもしれません。なんの知識も持たずに演奏される曲に耳をかたむけるのも楽しいですが、演奏される曲を知っていて、その背景が分かっていると、感情ののせ方などで演奏者がその曲に対してどう考えて接しているかが見えてくる気がするし、それらについて友達と話し合うことができるのはもっと楽しいです。私もいろいろなコンサートに出る機会があるので、演奏者の動き一つ一つや姿勢にも目がいきます。演奏はもちろんのことです。

四季のコンサートには興味をひくものや勉強になるものがたくさんつまっているもので、素晴らしい音楽を、いろいろな面から吸収できることがうれしいです。

★事務局より

ロンドン発！ 事務局変更のお知らせ

安倍紀子

このたび、友の会事務局の住所が変更となりました。発足当時より12年間事務局を担当させていただいておりました私が、突然、夫の転勤でロンドンへ転居する事となり、あれよあれよという間にこの原稿も今、ロンドンの自宅で書く事になってしまったからです。今後は《自称》浜松音楽友の会ロンドン支部《?》スタッフとして参加させていただこうと思っております。事務局の住所が変わりましたことを、どうぞご承知おき下さいますよう、よろしく願い申し上げます。

ロンドンに暮らし始めて、まだ1ヶ月しかたっていませんので、ほとんど旅行者気分のままです。しかし来てすぐわかる程、ロンドンはとても緑の多い街です。いたる所に大きな公園があり、人々がくつろいでいます。人々の暮らしぶりは、ほとんど日本と同じ様ですが、それぞれの庭だけは、日本より広々としていて、どの家も色とりどりの花を、実にみごとに咲かせています。園芸が盛んで、各地に素晴らしい庭園がいっぱいあります。私も大好きなので色々と見て歩くうちに、イギリス特有な事に気がつきました。イギリスの園芸というのは、まず「自然」という事をとても大切にしている様に思われます。たとえば私から見ると見落としてしまいそうな、雑草としか思われなような草まで上手に取り入れて、美しい花を咲かせているのです。いかにも無雑作に見せかけて、実は、大変巧みな計算と手間をかけて作っているのです。いかにも「ここから花壇です。」でなく、なんとなく自然にそこに自生しているかのように咲かせているのです。りっぱなバラの横に名もない花が群をなして美しさを競っています。

話が飛びますが、そう言えば行き交う若いロンドンっ子達も、ほとんどお化粧をせず、いかにも無雑作にしているかのように見えます。音楽にしても、イギリス人はあまりコンクールなどは、好きではないそうです。ロンドンという大都市をかかえている割には、大きなコンクールがイギリスでは、それほど多くありません。しかし、東京以上に世界中の一流のアーティストがロンドンで連日コンサートを開いているのは、ご存知の通りです。7月19日に始まった「BBCプロムス」は最終日9月19日まで連日連夜、一流の演奏家によるコンサートがロイヤルアルバートホールで繰り広げられています。

新しい物を次々と生み出してゆくロンドンの人々は、同時に、自然体を好み、古い物を誇りにし、さり気なさを大切にしている人々でもある事を園芸からも発見した様な気がします。世界の音楽の拠点でもあるロンドンでこれからどんな経験ができるのか、ロンドン支部スタッフの私にとりましては、とても楽しみです。秋も深まり、浜松では、秋・冬のコンサートが順調に開催される事でしょう。

今後とも浜松音楽友の会のコンサートをご期待下さい！。

新米事務局開設！ 皆様、よろしく！

原 や え 子

・・・と言う訳で、お留守の間事務局をお預りすることになりました。

ロンドンでの生活をエンジョイされている安倍さんに代り、不慣れな上、錆びついてしまっている頭を回転させながら、事務処理に追われている毎日です。

軌道に乗るまでは、少々時間を要し、皆様には御迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、宜しくお願ひ致します。

事務局といいましても、個人の小さな一室の机が事務室です。

掃除機をかけながら、そして食事の支度をしながらの電話番でございます。

もし、お電話して頂いても通じない時は、買い物に出ているのかも知れませんが懲りずに又、おかけ直して下さいませ。

良い演奏会を安い料金で会員の皆様にお届け出来る事が、スタッフ一同の喜びであります。

ご意見、ご希望などございましたらどしどしお寄せ下さい。

これからも皆様と共に歩んで行ける浜松音楽友の会でありたいと願っております。

次回コンサート

林 峰男チェロリサイタル

10月11日(金) 6:45 P.M.

1995年、デビュー20周年を記念して、カザルスホールにて「4日連続チェロ演奏会」を開き、ピアノの園田高弘氏との共演をはじめ、無伴奏、コンチェルト、アンサンブルという多彩な内容は新聞等で取り上げられた。今後ますますの活躍が期待される日本の代表的チェリスト。現在、スイス、ローザンヌ音学院チェロ科客員教授。

プログラム

カ サ ド：無伴奏チェロ組曲

第1楽章 前奏曲—ファンタジア

第2楽章 サルダナー—舞踏

第3楽章 間奏曲—ダンツァ・フィナーレ

黛 敏 郎：BUNRAKU (文楽)

コ ダ ー イ：無伴奏チェロソナタ作品8

第1楽章 アレグロ・マエストーソ・マ・アパッショナータ

第2楽章 アダージョ (コン・グランド・エスプレシオーネ)

第3楽章 アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ

今回のプログラムは、いずれも無伴奏チェロのためのオリジナル作品。20世紀に書かれた傑作ぞろいである。スペイン (カサド作品) 日本 (黛作品) ハンガリー (コダーイ作品) という、それぞれが豊かな民族色に溢れている点も実にユニークであり、心憎いばかりのプログラミングと言ってよいだろう。

(安藤 博氏—今年度よりの曲目解説者)

1997年 ぶらあいおんがくかい 予定

春 ゲヴァントハウス弦楽四重奏団 3月12日(水)

現役で世界最古、最長の伝統を誇る稀有のクワルテット。
見事に継承されている伝統の音をお楽しみ下さい。

夏 パスカル・ゴダールピアノリサイタル 5月15日(木)

14歳でパリ国立高等音楽院に入学。
クリーブランドコンクール4位、ボルトコンクール1位、東京国際コンクール6位などの輝かしい
キャリアを持つ若手ピアニスト

浜松出身の演奏家シリーズⅣ

太田茉莉ピアノリサイタル 7月25日(金)

16歳でヴィオッティ国際音楽コンクールに最年少入賞。
昨年9月のアクトシティ浜松中ホールでのリサイタルに続き、今年12月21日(土)Uホールにてク
リスマスチャリティコンサート(ピアノ・デュオ)を開く予定の新進ピアニスト。
現在、オーストリア国立モーツァルテウム音楽院マスターコース在学中。
浜松西部中学校卒。

秋 未定です。

10月9日(木)
石倉由紀子(ソプラノ) × 藤井萌(テノール) ヴァイオリンリサイタル

冬 北村源三トランペットリサイタル

11月28日(金)

大変待ち望まれていた日本のトランペット界の第一人者によるコンサート。どうぞお楽しみ下さい。
ピアノ 長尾洋史(第1回浜松国際ピアノコンクール第5位)

シュー・ツオンピアノリサイタル プログラム変更のお知らせ
ベートーベン/ピアノソナタ「熱情」
ブラームス/ピアノ小曲集 Op.118
リスト/ピアノソナタ ロ短調

会員の皆様へのお願い

会員日より 皆様のご寄稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚以内でお願いいたします。テーマは自由です。

会員登録は年度が変わってもそのまま継続されます。

退会希望の方は、ハガキに住所 氏名 電話 会員番号をご記入の上、前年度の12月末日迄に、事務局宛退会の旨をご連絡下さい。

名義変更の方も、ハガキに旧会員と新会員の住所 氏名 電話 会員番号(旧会員の)をお書きの上事務局宛お送り下さい。

保育室御利用の方は、コンサートの前日までに、戸部 ☎053(454)5359までお申し込み下さい。

開場時(開演30分前)から終演までお預りします。1回300円です。